

袴田巖氏、バースディアクションのご報告



アムネスティ日本支部では、「危機にある個人」として支援してきた死刑囚の袴田巖さんをさらに支援するために「Fight for a Fighter (ファイト・フォ・ファイター)」というフォトアクションを行っています。

元プロボクサーの袴田さんは、1966年（当時30歳）に味噌製造会社の専務とその妻、2人の子どもを殺害し自宅を放火したとして逮捕されました。静岡地裁で1968年、死刑判決を言い渡され、1980年には最高裁で死刑が確定しました。現在は、第二次再審請求審が静岡地裁で継続中です。昨年4月には、弁護側・検察側双方の鑑定が、犯人の着衣と、袴田死刑囚本人のDNAは「完全に一致するものはない」と結論付けており、再審開始の可能性が高まっています。袴田さんは、逮捕以来45年以上獄中生活を強いられて現在76歳、深刻な精神疾患を煩っているとも言われています。

日本支部は3月10日の袴田さんの誕生日を皮切りに、世界が団結して袴田さんへの支援を訴える、Fight for a Fighterというフォトアクションを呼びかけてきました。

このアクションは、キャンペーンの絵と同じようにファイティングポーズをとった姿を、袴田さんへのメッセージとともに写真に収めて集めるというものです。たくさんの方がたのご協力をお待ちしています。



緊急行動 ～グッドニュース・その後の進捗～

〔イラン〕

ベフルーズ・ゴバディさんが1月22日に釈放されました。ゴバディさんの兄バフマン・ゴバディさんは、国際的に有名な映画監督です。ベフルーズさん自身も3本の短編映画を監督し、兄の映画6本の制作総監督やプロダクション・マネージャーを務めてきた人物です。

ベフルーズさんは、諜報省と思われる人たちによって2012年11月4日早朝に逮捕され、隔離拘禁されていました。国の安全を脅かした疑いで尋問にかけられたようですが、政治団体に属していたわけではなく、なんの政治活動もしていないと、無実を主張していました。

釈放にあたっては、アムネスティの会員による活動はもちろん、ハリウッドの映画監督や俳優など著名人を巻き込んだ署名運動も展開し、ベフルーズさん釈放運動は大いに盛り上がりました。皆様のご協力に感謝します。

〔中国〕

人権活動家の毛恒鳳さんが2月8日、釈放されました。毛さんは、女性が子どもを生む権利と強制退去への反対を訴えて活動を続けていましたが、2011年9月、政府より「社会秩序を乱した」として、18カ月の「労働教養（労働による再教育）」を命じられ、留置所に拘束されていました。

アムネスティは、この拘束が11月に行われた第18回共産党大会の開催期間中のキャンペーン活動を妨害するためであるとみて、彼女は良心の囚人であると訴えていました。毛さんは、過去にも「労働教養」で拘束され、さらに拷問も受けました。彼女は高血圧と拷問による重い障がいのため医療赦免となったこともあります。

今回の釈放は、中国政府が、毛さんが労働教養の残りの期間を自宅で行う許可書を発行したことによって実現しました。釈放に向けて活動して下さった会員の皆様、ご協力をありがとうございました。

拷問被害者の子どもたちに向けた

アクションのご報告

中央アジアの3月はペルシャの暦で新しい年を迎える月です。特に3月21日はペルシャの春節であり、お祝いの日として知られています。しかし拘束され拷問を受けている被害者の家族にとっては、この季節はことさらに辛い時期となります。拷問を受けたトラウマは、本人に限らず、その家族にまで及びます。

この春、アムネスティでは、彼ら家族には私たちがともにいることを伝えるアクションを実施しています。拷問を受けている人びとの子どもに、絵本を贈るのです。一見、とてもちっぽけな活動のように見えますが、この小さな贈り物が、全世界に大勢の仲間がいることを伝える絶好の機会となることは間違いありません。以下、家族の状況をお伝えします。

〔ディムラト・カイダロフさん〕

ディムラト・カイダロフさんは、キルギスで働くウズベキスタン人弁護士で、3人の子どもがいます。



ある日、キルギスタンの警察に拘束された後、3日にわたって拷問を受け、身に覚えのない殺人の自白を強要されました。ディムラトさんによれば、警察は頭や指などあらゆる場所をゴムの警棒で殴り、ポリ袋で窒息させようとしたり、クリップで指の爪を剥がそうとしたりしました。

ディムラトさんは度重なる拷問に屈することなく自供書に署名をしなかったため、拘禁されたままで、もし裁判で

有罪となれば終身刑になる可能性もあります。

〔ディミトリ・ティアンさん〕



ディミトリ・ティアンさんは、カザフスタン警察に拷問を受けました。取り調べで警察は、「殺人事件の自白をしない

と、生きて裁判には出られないぞ」と脅迫。下着姿にされ足を開いて立たされ、警棒と空瓶で殴られました。ディミトリさんはその後、不当な裁判によって、懲役25年の有罪判決を受けています。

〔イーホーム・イスモノフさん〕

タジキスタンのイーホーム・イスモノフさんは、2児（9歳



と6歳の男の子)の父親です。2010年11月3日、何者かに連れ去られ、翌日、当局関係者が自宅を訪れ、「ご主人は、内務省の組織犯罪課に捕らえられている」と伝え、イスモノフさんの所持品を調べていきました。翌々日、家族は本人と面会することができましたが、イーモフ

さんは体を動かすことができず、泣き伏していました。ひどい拷問を受けたようでした。その後、不公正な裁判で懲役8年の実刑を受けています。(その後、刑は6年に減刑されています)

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778
E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000 円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本